

向前吉、向後凶、兩角間有亂毛起名頭陀妨主、耳去角要近可容指方好、耳後有旋毛名刺環招盜賊、頸骨欲長大、毛短密硬而黑者奈寒疎長如鼠毛者怕寒、前脚欲直而闊後脚若曲而開、股瘦小則捷快、蹄欲得大、青黑紫色吉、乳紅者多子、乳疎黑者無子、尿射前膀胱者快直下者鈍、尿欲蹲放、如繩旋有力臂欲厚重、尾稍長大吉。

〔枕草子〕心ゆくもの

うしは、ひたひいとちいさくしろみたるが、はらのした、足の下、尾のすそ白き。

〔吾妻鏡二十三〕建保五年五月廿五日壬寅、於御持佛堂被供養文殊像、導師壽福寺長老、而將軍以年來御所持牛玉爲御布施、廣元朝臣不可然之由、雖領申、不能御許容云云。

〔視聽草五集四〕白牛出房州嶺丘者

桃井○按、是非家牛、非犧牛別是一種、白牛鬱林人謂之州留牛、疑此物耳、寅嘗聞諸浮屠氏、天竺國白牛多有之、生於雪山及他山林中、好食茅草及諸香草、彼國俗採其乳酪貴重之、猶此方蜂蜜、其屎尿常用而不以爲穢、反以爲淨、供于賓客灑掃之用云、法華經曰、大白牛車、又有以牛糞塗於祕密壇場之事、皆山生白牛糞也、由此觀之、山牛之與家牛別豈同日而論之乎、漢士人不知之、曰牛羊水牛馬乳並可作酪、是皆臭穢之物、安在益人哉、漢地元來無此物、以家牛爲牛、其白牛亦是家牛而已、我日本此物未嘗之有也、至于有德廟、吉宗○德川始放白牛三頭於房州嶺丘、聖德仁惠之不空、其牛蕃息殆向六七十頭、今茲壬子春、寛政四年岩本石州公奉台命攀躋于嶺丘、得牛乳數石、以製乾酪、使不佞寅考其治功云、

〔雲錦隨筆〕攝州東生郡淳江村の農家に、文化五年戊辰四月、白牛出生しけるにより、其評判四方に高く、殊更に物見高き浪花の貴賤、我もくと彼地に到り、群集する事夥し、古今の珍事といふべし、予鑑成○曉幼き頃白鹿、白猪等は觀物とせしを見たり、白猪は異國より渡りしなどいひて、名をウキットハルケンといへり、按するに、ウキットは蘭語の白といふこと、ハルケンとは猪の蘭語。